報告 REPORT

令和７年度地域保健等に関する調査研究助成について

◇地域保健部◇

北海道医師会では､本道の地域保健等の向上・推進に資する調査研究活動への助成事業を実施しております。昨年度は以下８つの調査・研究に対して助成いたしました。

調査・研究内容の詳細については、北海道医師会ホームページに随時掲載いたしますのでご覧ください。

●掲載はこちら　　北海道医師会トップページ　→　北海道医報　→　2026年９月１日[第1296号]

■執筆者　荒木　義則、長岡　由修、岡本　孝之、佐野　仁美、八十嶋弘一
（札幌市医師会／札幌市学校医協議会／札幌市学校検尿検討委員会）
■テーマ　2025年度札幌市学校検尿の成績と課題

2025年度札幌市学校検尿について、小中学生の成績を報告した。受検率は98.3％で近年上昇傾向にある。要精検率0.27％は例年通り、医療機関受診率60.2％は前年、前々年より上昇している。尿蛋白クレアチニン比の測定、尿ケトンの測定を加えたことにより学校検尿の有用性が増した。今後は高い受検率を保持したうえで、医療機関受診率のさらなる向上を図る必要がある。

■執筆者　石津　　桂、小池　明美（札幌市医師会／札幌市学校医協議会）
■テーマ　札幌市の児童生徒の体格指数の変化及び成長曲線利用による健診後調査

「札幌市の学校健診における成長曲線有効利用」の実態及び健診後調査を行い、その有効性について検討を続けている。令和６年度調査研究にて新型コロナ感染症パンデミック後の児童生徒の体格指数の変化について報告を行ったが、その後の経過について報告するとともに問題事項の検討を実施し、適切な対応につなげることにより児童生徒の健全な発育に貢献する。

■執筆者　高木　摂夫、岡村　暁子、新谷　朋子、佐野　宏行
（札幌市医師会／札幌市学校医協議会／札幌市耳鼻咽喉科医会）
■テーマ　札幌市立高等学校学校医の活動推進と問題点の検討　―耳鼻咽喉科学校健診結果と学校医活動―

令和６年度札幌市立高等学校の耳鼻咽喉科健診結果を集計し、高校生の耳鼻咽喉科疾患について調査研究を行った。またその結果をもとに、高校生の耳鼻咽喉科健診の在り方について、担当している耳鼻咽喉科学校医に意見を聞き整理して報告した。

■執筆者　水関　　清、平田　博巳、中島　滋夫（函館市医師会／函館動脈硬化懇談会）
■テーマ　健診領域における超音波検査の標準化に関する研究

現行の健診で指摘率が高い肝機能異常を評価する二次検診として、腹部超音波検査では、肝・胆・胆道・脾・腎・膵を観察する標準走査20断面に加え、肝の減衰係数測定とファンダメンタル画像による肝腎コントラストの半定量的描出によって脂肪肝を評価する新たな走査法を考案した。

■執筆者　澤田　知里、山本　里美、中村　育子、和泉　裕一
（上川北部医師会／名寄市立大学コミュニティケア教育研究センター）
■テーマ　フレイルサポーターによる住民主体のフレイル予防普及活動への取り組み
―シニアフレイルサポーターのやりがいに焦点を当てて―

本研究は、2025年度に開始した住民主体の多世代フレイルサポーター活動がシニアサポーターの身体的・心理的・社会的側面にどのような影響（やりがい）をもたらすかをアンケート調査によって明らかにするものであるが、３カ年計画で実施する予定であり、本稿では2025年度のサポーター活動の実際を中心に報告する。

■執筆者　吾田富士子、吉木　美恵、古田　博文（北海道保育保健協議会）
■テーマ　保育施設における医療的ケア児の受け入れ体制に関する調査 第３報

医療的ケア児の保護者への質問紙調査を行った結果、保育園を利用していない家庭は８割で、その理由は６割が「必要とするケアに園が対応できない」、３割が「断られた」であった。行政や園に求める開示情報は看護師体制が９割強、受け入れ可能な子どもの状態の目安が８割弱などであった。保護者が自ら探さなければ情報が得られず、保育への不安やあきらめにつながっているため、早い時期からの相談・情報共有が求められる。

■執筆者　荻原　重俊、川口　祐嗣、齋　　秀二、上野　倫彦（北海道小児科医会）
■テーマ　保育・教育現場における救命講習の実施状況に関する調査

札幌市内の全保育施設・幼稚園・小中高等学校等を対象に救命講習の実施状況を調査した。過去５年間に約41％の施設が実際に救急対応事案を経験しており、約84％の施設で職員向け講習を行っていた、小児で重要となる窒息対応や人工呼吸の講習・準備体制の課題が明らかになった。

■執筆者　中島　美佳（北海道小児科医会）
■テーマ　道南地区における遺伝疾患の診断と遺伝カウンセリング、患者支援について

道南地域における先天疾患、遺伝疾患を有する小児やその家族、成人期の当事者へ遺伝カウンセリングを行うとともに、診断不明の疾患を明らかにして治療や健康管理に結びつける。